



野球の打撃における スイング速度の研究

人間科学部
スポーツ健康科学科
教授

奥村 浩正



研究シーズの紹介

2024年から高等学校の硬式野球では、新基準（低反発）バットが採用されることになった。反発性能は減少されることから今までより飛距離の獲得は困難になることが予想されている。

打球飛距離に関する研究では、インコース打ちと比べてアウトコース打ちは飛距離が出ないとの報告がある。その要因として、バットスピードや投射角度などが挙げられており、飛距

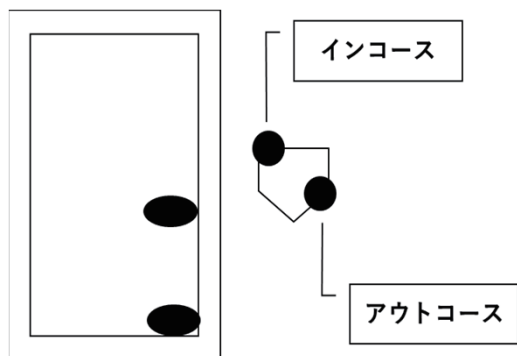
離を出すためにもスイングスピード向上が重要となると示唆されている。

本研究では、某高校野球チームの打撃力向上を目指すためにインコースとアウトコースのスイングスピードの現状を把握し、課題を見出すことで、今後のチームの打撃力向上に関する基礎資料を得ることを目的とした。



スイングスピード 向上

- 逆方向（流し打ち）への課題が明確になる。
- 逆方向（流し打ち）への打撃技術の向上が期待できる。



期待される活用シーン

- 逆方向（流し打ち）への打撃スキル獲得が困難である



ボールを捕手側まで引き付けて打つことによって、逆方向へ飛ぶ確率が高くなります。

- 引っ張り方向へ強い打球を打ちたい



打撃ポイントをインコース寄りにして投手側（前ポイント）でミートすると引っ張り方向へ飛ぶ確率が高くなります。